

[国 語]

根拠を明確に示して自分の考えを説明する力を高める指導

－「論理のピラミッド」を活用した俳句の鑑賞の授業実践から－

吉樂 均*

1 研究の意図

平成24年度から完全実施されている「中学校学習指導要領」では、「指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」として、生徒の思考力、判断力、表現力等を育む観点から、言語活動の充実を挙げている¹⁾。近年の国内外の学力調査の結果などから、我が国の子どもたちには思考力、判断力、表現力等に課題が見られることを受けた改訂である。

文部科学省による「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】」では、「言語活動については、国語科で培った能力を基本に、すべての教科等において充実する必要がある。」としており、国語科の指導において、まずもって、他教科の基本となるような言語活動の充実が図られなければならない²⁾。

同書では、「事実等を解釈し、説明することにより自分の考え深めること」のための言語活動の留意点として、「②自分の考えについて、探究的な態度をもって意見と根拠、原因と結果などの関係を意識し、説明する際にはそれを明確に示すこと」を挙げている。根拠を明確に示して自分の考えを説明することは、他教科の学習においても必要な、基本となる学習内容である。本研究は、「中学校学習指導要領」において言語活動例としても挙げられる鑑賞の授業実践を通し、思考力、判断力、表現力等の育成に向け、根拠を明確に示して自分の考えを説明する力を高める指導について提案する。

吉樂 (2011) は、「論理のピラミッド」を活用することにより、非連続型テキストに基づいて自分の考えを書く力を高める指導を提案した³⁾。本研究は、そこで用いた「論理のピラミッド」に一部修正を加えた、「具体的な事実」「考察」「判断」の3層を積み上げていく「論理のピラミッド（基本）」(図1)を授業実践に取り入れ、連続型テキストである俳句の鑑賞の学習において、根拠を明確に示して自分の考えを説明する力を高める指導の方法を工夫する。暗示的な表現を含むために多様な解釈が可能な文学的文章の読解、とりわけ省略されている部分が多く情報量が少ない俳句の鑑賞では、根拠を明確に示して自分の考えを説明する力がより強く求められる。読解の手がかりとなる表現が少ない俳句の鑑賞の授業実践においても、「論理のピラミッド」を活用することにより、想像した情景・心情や感想についての自分の考えを、根拠を明確に示して説明する力を育成できるか、その可能性を探りたい。

なお、本研究では、題材から取り出した「具体的な事実」を「根拠」と捉える。俳句の鑑賞においては、作品中の表現そのものである。また、「具体的な事実」に基づき、事実の関係や意味について推論したことを「考察」と捉える。俳句の鑑賞においては、作品中の表現に基づいた、情景・心情などについての解釈がそれに当たる。

2 研究の目的

本研究は、俳句の鑑賞の授業において、根拠を明確に示して自分の考えを説明する力を高めるために、「論理のピラミッド」を活用した指導が有効であるかを明らかにすることを目的とする。

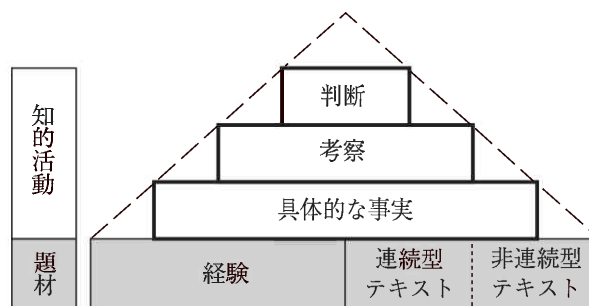


図1 論理のピラミッド（基本）

* 十日町市立松代中学校

3 実践の概要

(1) 単元名 豊かな言葉「俳句の可能性」「俳句十六句」 (光村図書中学3年)

(2) 単元の目標

- ① 俳句を読み、具体的な表現に即して、情景や心情を捉える。
- ② 自分が選んだ俳句のよさについて、根拠を明確に示した鑑賞文を書く。

(3) 実施対象及び実施時期

- ① 実施対象 新潟県内公立中学校 3学年21名 (男子10名 女子11名)
- ② 実施期間 平成24年7月

(4) 指導計画 (全5時間)

時	主な学習内容
1	○俳句の形式を知る。 ○「俳句十六句」の作品と大意を読み、好きな作品を選んで鑑賞文を書く。
2	○俳句「いくたびも雪の深さを尋ねけり」の情景・心情を考える。 ○鑑賞文の内容の3層を理解する。
3	○俳句「どの子にも涼しく風の吹く日かな」の情景・心情を考え、鑑賞文を書く。 ○「俳句の可能性」を読む。
4	○「俳句十六句」の好きな作品について、これまでの学習を生かしながら、再度鑑賞文を書く。
5	○鑑賞文を回し読みし、コメントを付け合う。

(5) 授業の実際 (2/5時)

- ① ねらい
 - ・俳句「いくたびも雪の深さを尋ねけり」について、表現に基づいて情景・心情を捉えることができる。
 - ・着目した表現 (根拠) とそこから想像した情景・心情を明確に示した鑑賞文の書き方を理解できる。
- ② 展開

学習活動	教師の働きかけ
○課題の俳句を視写、音読する。 ○気づいたこと、考えたこと、思ったことを書く。 ○想像した情景を、俳句の表現から確かめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・季節はいつか。(冬←季語：雪) ・雪はどれくらい降っているか。(たくさん) ・話者には雪が見えているか。(空中だけ見えている) ・なぜ尋ねるのか。(病床) … ○読み取った情景から、俳句に込められた心情を考える。 ○俳句を読んだ感想を交流する。 ○読み取りを生かして、鑑賞文を書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・「論理のピラミッド」の3層と思考文型 ・生活での活用例「論理のピラミッドを使って」(図2) ○鑑賞文の例(図3)を参考に、A～Cから課題を選択し、鑑賞文を書いてみる。 <ul style="list-style-type: none"> A 自分なりの鑑賞文を書く。 B 「鑑賞文(例)」をアレンジする。 C 「鑑賞文(例)」を視写する。 	○課題となる俳句を板書する。大意を確認する。 ○捉えた情景の違いから、学習課題を設定する。 ○根拠の強さにより区分する。 <ul style="list-style-type: none"> ・表現に明示されている情景…◎ ・表現から推測される情景 …○ ・多様な読みができる情景 …△ ・表現と矛盾する情景 …× ○大きく分類する。(喜び 悲しみ もどかしさ …) ○「論理のピラミッド」に基づく鑑賞文の3層を確認する。 <ol style="list-style-type: none"> ①具体的な事実＝着目した表現 (根拠) ②考察＝想像した情景・心情 ③判断＝感想 ○3層に合わせた思考文型を示し、思考・表現を促す。 <ol style="list-style-type: none"> ①着目した表現「……という表現がある。」 ②想像した情景・心情「表現から、……と考えられる。」 ③感想「私は、……と思う。」

(6) 評価

① 生徒の作品

第1時 (指導前) と第4時 (指導後) に、生徒個々が教科書教材から選んだ俳句について作成した鑑賞文を比較する。

② 生徒の意識

「論理のピラミッド」を活用した授業について、単元終了時に生徒へのアンケート調査を実施する。

論理のピラミッドを使って

(例1) ○○大会の報告

○○部からの大会報告です。
○月○日に、○○大会がありました。
結果は、○○でした。

事実

考察

判断

前の大会よりも良い結果を出
せた理由は二つ考えられます。
一つは、部内で前の大会の結
果について話し合い、それまで
以上に内容の濃い練習ができた
からです。
もう一つは、当日多くの人が
応援に来てくれて、いつも以上
にがんばれたからです。

次の大会では、さらに良い結
果を出せるよう、今まで以上に
練習に力を入れようと思いま
す。期待に応えられるようにが
んばるので、これからも応援よ
ろしくお願いします。

(例2) ○学期の振り返り

私は、今学期に、生活面では
「早起・早起をする」、学習面
では「毎日二時間の家庭学習を
する」という目標を立てました。
生活面の目標は達成できました
が、学習面の目標は達成できま
せんでした。

事実

考察

判断

学習面の目標を達成できなか
った原因として、二つのことが
考えられます。
一つは、テレビやゲームを優
先し、家庭学習を始めるのが遅
くなったため、すぐに眠くなっ
てしまったからです。
もう一つは、それまで三十分
しかやっていたいなかった私には、
「二時間」の目標が高すぎたか
らです。

来学期は、同じ失敗を繰り返
さないよう、時間を「二時間半」
とし、確実に実行します。その
ために、毎日九時には、机に向
かうようにしたいと思います。

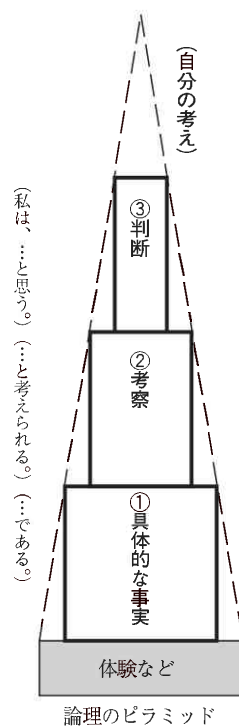


図2 配布プリント「論理のピラミッドを使って」

俳句 鑑賞文 (例)

いくたびも雪の深さを尋ねけり 正岡子規

この俳句は、何度も降り積もる雪の深さを尋ねたことであつた、と
いう意味である。

大意

情景 ← 表現

心情 ← 表現

感想

俳句の中に「いくたびも」という表現がある。この表現から、何度
も尋ねるほど、長い時間雪が降り続いてたと考えられる。また、俳
句の中に「雪の深さ」という表現がある。この表現から、降り積もる
ような激しい雪の降り方だったと考えられる。さらに、俳句の中に「尋
ねけり」という表現がある。この表現から、雪がどれくらい積もった
のかがとても気になるのだが、自分では確かめることができない状態
だと考えられるし、一日に何回も部屋を訪れてくれる人が近くにいた
とも考えられる。
もしかしたら、語者は、病気で寝ているのかもしれない。窓などが
激しく降る雪が見えるが、地面に降り積もった様子は見ることがで
きないのだろう。だから、看病してくれている家族が部屋を訪れるた
びに積もった雪の量を探っているのではないだろうか。

降り積もる雪をとても気にしている話者の様子が伝わってくる。話
者はきつと、() () だと思った。

A 珍しい大雪を、子どもの時のように喜ぶ気持ち
B 雪の積もり方を自分で確かめられないもどかしい気持ち
C 雪に夢中になつていて自分にあきれられる気持ち

この俳句を読んで、私は、() () だと思った。

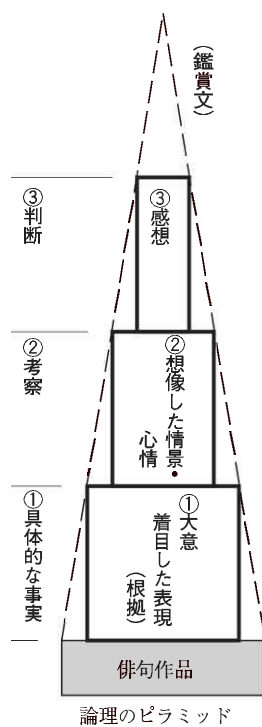


図3 配布プリント「俳句鑑賞文 (例)」

4 結果及び考察

(1) 生徒の作品から

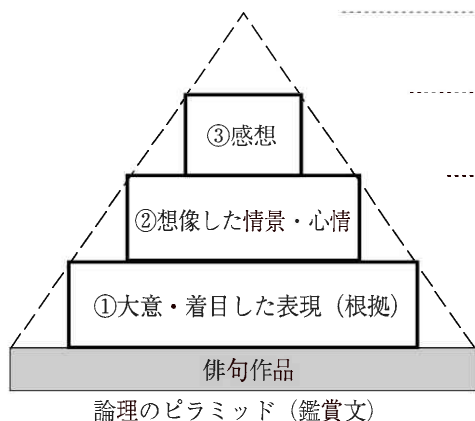
第1時（指導前）と第4時（指導後）に、同一課題「気づいたこと、考えたこと、思ったことを基に、できるだけたくさん、鑑賞文を書こう」に取り組んで生徒個々が作成した鑑賞文を比較した。なお、第4時においては、生徒本人にも、記述内容の分類を鑑賞文の行頭に記入させている。

生徒個々の鑑賞文について、「論理のピラミッド」の「具体的な事実」に当たる着目した表現に関する記述、「考察」に当たる情景と心情に関する記述、「判断」に当たる感想に関する記述について、記述内容の適否は問わず、該当する記述の有無を基準として評価した。その結果、第1時と第4時に同じ俳句を選んで鑑賞文を作成した生徒17名の作品について、「論理のピラミッド（鑑賞文）」を活用した指導の前後に大きな変化が見られた。「論理のピラミッド（鑑賞文）」を活用した指導の前後における、着目した表現に関する記述の有無についての直接確率計算を行った結果、1%水準で有意に増加した（ $p=0.0000$ 、片側検定）。また、心情に関する記述の有無についての直接確率計算を行った結果、1%水準で有意に増加した（ $p=0.0002$ 、片側検定）。（表2）このことから、学級全体の傾向として、第1時の鑑賞文に欠けていた着目した表現および心情に関する記述が、第4時の鑑賞文では追加されたことが伺える。

表2 観点別記述数の変容（人）

N=17

	第1時		第4時		直接確率計算 (2×2)
	有	無	有	無	
③感想	10	7	13	4	$p=0.2323$ ns ($.10 < p$)
②想像した情景・心情	4	13	15	2	$p=0.0002$ ** ($p < .01$)
①大意・着目した表現（根拠）	13	4	17	0	$p=0.0513$ + ($.05 < p < .10$)
着目した表現	4	13	17	0	$p=0.0000$ ** ($p < .01$)



表現・情景のみの記述だった生徒A、心情のみの記述だった生徒B、感想のみの記述だった生徒Cのそれぞれが、第1時に作成した鑑賞文において十分でなかった内容を補って、第4時の鑑賞文を作成することができている。（図4の下線部）「論理のピラミッド」という枠組みと照らし合わせることで、不足している内容に気付くことができたと考えられる。

また、第4時に作成した鑑賞文では、不足していた内容を補う中で、表現（具体的な事実）→情景・心情（考察）→感想（判断）へと思考を積み上げていくことにより、根拠となる表現を明確に示して自分の考えを説明することができている。さらに、表現に改めて注目することで、見落としていた部分に気付き、情景・心情をより深く読み取ることもできている。

生徒A	選んだ句	ゆさゆさと大枝ゆるる桜かな 村上鬼城
	第1時	春ですごく大きな桜が咲いていると思いました。大枝ゆるると書いてあるので、何十年も咲き続けている大きな桜なのかなと思いました。（筆者による観点別分類：表現・情景）
	第4時	大意 [この俳句は、ゆさゆさと大きな枝を揺らしている桜であることだなあ、という意味である。
		表現・情景 [この俳句の中に「桜」という季語があり、春だと分かる。また、句の中に「ゆるる」という表現があるので、優しい風が吹いていて揺れているのだと思う。さらに、句の中に「大枝」という表現がある。この表現から、桜の木が大きいことが分かる。 何十年も咲き続けている大きな桜に、優しい風が吹いて揺れているのだと思う。
		心情 [揺れる桜を見ている話者の様子が伝わってくる。話者はきっと、優しい気持ちだったのだろう。なぜなら、長い間がんばって生き続ける桜に風が吹き、揺れる桜に春を感じたからだ。
		感想 [この俳句を読んで私は、春はいろいろな事が始まる季節なので、とてもいい季節だと思った。

生徒B	選んだ句	斧入て香におどろくや冬こだち 与謝蕪村
	第1時	古いと思っていた物が、それはたいそうすばらしかった。見かけで判別できないよさがある。(筆者による観点別分類：心情)
	第4時	大意 [この俳句は冬に枯れたように見える木に斧を入れると、そこから生き生きとした木の香りがしてきたということである。 表現↓情景 [俳句の中に「冬こだち」とあるので、季節は冬である。「香におどろくや」という表現から、すばらしい香りでおどろいたと考えられる。このことから、話者は枯れたように見える木でも、生き生きとした木の香りがして驚いたと考えられる。 心情 [もしかしたら、話者は、物事をうわべだけで判断してはいけないと思って、この作品を書いたのではないか。 感想 [この俳句を読んで、うわべだけで判断しないようにしたい。
	選んだ句	古池や蛙飛びこむ水のおと 松尾芭蕉
生徒C	第1時	私はこの俳句を読んで、何もない場所だと思っていても、自分の知らない所で、いろいろな生物がいるんだ、と思った。(筆者による記述内容の観点別分類：感想)
	第4時	大意 [この俳句は、古い池だなあと眺めていると、蛙の飛びこむ水の音が聞こえたという意味である。 表現↓情景 [俳句の中に「蛙飛びこむ水のおと」という表現がある。この表現から、蛙が飛びこむ水の音が聞こえるくらい静かな場所だと思う。また、俳句の中に「古池」という表現がある。この表現から、周りには誰もいないような所だと思う。もしかしたら、話者は一人で古池を見ていたのかもしれない。 心情 [話者はきっと、うれしい気持ちだったのだろう。なぜなら、自分の知らない場所で小さな生き物たちが生きているから。 感想 [私はこの俳句を読んで、自分の知らないところで、たくさんの生き物が生活しているんだ、と思った。

図4 生徒の作品(下線：筆者)

(2) 生徒の意識から

項目1～7(4件法による回答)に関して、肯定的回答と否定的回答についての直接確率計算(片側検定)を行った結果、いずれの項目も、1%水準で肯定的に有意であった。「論理のピラミッド」による指導が有効であったことが生徒にも意識されていると考えられる。(表3)

表3 生徒の意識(人)

N=21

項目	質問内容	肯定的回答	否定的回答	直接確率計算(1×2)
1	授業での説明を聞き、「論理のピラミッド」について、納得することができたか。	20	1	p=0.0000 ** (p<.01)
2	「論理のピラミッド」を活用することにより、学習前に比べて、俳句の鑑賞文に書く内容が明確になったか。	19	2	p=0.0001 ** (p<.01)
3	「論理のピラミッド」を活用することにより、学習前に比べて、根拠を明確に示した説得力のある俳句の鑑賞文を書くことができたか。	20	1	p=0.0000 ** (p<.01)
4	「論理のピラミッド」を活用することにより、学習前に比べて、表現に注意して俳句を読み深めることができたか。	20	1	p=0.0000 ** (p<.01)
5	「論理のピラミッド」は、国語の他の単元の中で、自分の考えを述べる場面で役に立ちそうか。	20	1	p=0.0000 ** (p<.01)

6	「論理のピラミッド」は、他の教科等の授業の中で、自分の考えを述べる場面で役に立ちそうか。	21	0	p=0.0000 ** (p<.01)
7	「論理のピラミッド」は、生活の中で、自分の考えを述べる場面で役に立ちそうか。	20	1	p=0.0000 ** (p<.01)

※肯定的回答：「ハイ」と「どちらかというハイ」の合計 否定的回答：「どちらかというイエエ」と「イエエ」の合計

5 成果と今後の課題

(1) 成果

実践授業前後に、生徒の作品及び意識に有意の向上が見られ、俳句の鑑賞において、根拠に基づいて自分の考えを説明する力を高めるために、「論理のピラミッド」を活用した指導が有効であることを明らかにすることができた。

(2) 今後の課題

生徒Dの鑑賞文からは、以下のような課題も見えてきた。

- ・第1時に見られた形式に関する考察が、第4時の記述からは消えている。(図5の下線部A)
- ・第4時の記述では、「感想」として、心情についての考察が繰り返されている。(図5の下線部B)

今後、情景・心情といった内容に関する考察に加え、作品の形式についての考えも鑑賞文に盛り込めるよう、指導内容を広げていきたい。また、「論理のピラミッド」における「考察」と「判断」の区分が明確になるよう、わかりやすい説明を工夫したい。

生徒D	選んだ句	咳をしても一人 尾崎放哉
	第1時	この俳句を読んで考えたことは、一人ということで、孤独なイメージをさせるものだと思います。(筆者による観点別分類：表現・心情) A 思ったことは、俳句なのに、五，七，五のテンポで作られていないということです。(筆者による観点別分類：情景・心情以外の、形式に関する考察)
	第4時	大意 [この俳句は、咳をしたら、ただその咳の音が聞こえるだけで、一人であることを実感した、という意味である。
		情景 [俳句の中に「一人」という表現がある。この表現から、誰もいない部屋に、一人でいるということが考えられる。また、俳句の中に「咳」という表現がある。この話者は、かぜをひいているのだろうと思った。咳をして、本当にだれもないのだろうかと確かめたのだろう。
		心情 [「咳をしても一人」ということから、一人でとても孤独なのだろう。なぜなら、「咳をしても」の「も」から、咳以外で周りを見渡しても、だれもいなかったのだろう。
		感想 [B この俳句を読んで、話者は、かぜをひいていて、とても孤独でさみしかったのだろうと思った。(筆者による観点別分類：心情)

図5 生徒の作品(下線・記号：筆者)

引用文献・参考文献

- 1) 文部科学省「中学校学習指導要領」, 2008年, 18p
- 2) 文部科学省「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力, 判断力, 表現力等の育成に向けて～【中学校版】」, 2011年
- 3) 吉樂均「非連続型テキストに基づいて自分の考えを書く力を高める指導ー「論理のピラミッド」を用いた課題短作文の授業実践からー」, 上越教育大学学校教育実践研究センター『教育実践研究, 第22集』, 2012年, 45～50pp